

「気になるマーク」

二田市北小学校五年

原田 侑志

世の中には、様々な「気になるマーク」があります。耳マークや補助犬マーク、マタニティマークなど多くあります。これらのマークは、マークを見た人たちに様々なことを知らせたり、伝えてくれたりします。たくさんあるマークの中で、

「ヘルプマーク」があるのを知っていますか？このマークは、体が不自由な人や、外見から分からなくても援助や配りよを必要としている人が、周囲に知らせるためのマークです。

ぼくは三年生の時、大きな病気をして長い期間入院していました。退院して学校にもどる時にお母さんがお守りとして、ヘルプマークをランドセルにつけてくれました。最初つけてもらった時、ぼくは、

「つけるのはいやだなあ。みんなに不自然に思われるだろうなあ。」

と思い、ランドセルのポケットに入れて見えないようにかかしていました。久しぶりの学校でみんなはどう思うのかなと考えていましたが、病気になる前と変わらずに、友だちとして接してくれました。そのやさしさに安心しました。「これならヘルプマークが見えてもだいじょうぶだ。」と思うようになりました。

五年生の道徳で、「気になるマーク」というじゅ業がありました。耳マークをはじめ、いろいろなマークの意味について学習しました。じゅ業の中で、「ヘルプマーク」のしょうかいがありました。先生がヘルプマークを見せたしゅん間、クラスのみんなが、

「侑志くんのだー！」

と気づいてくれていました。その様子を見て、ぼくはとてもうれしい気もちになりました。みんながぼくのことを見てくれている、知ろうとしてくれることを感じ、ぼくはもっと知ってもらおうと思い、自信をもってヘルプマークを見せました。そ

ここでぼくは、クラスのみんなに、これからも同じクラスの仲間、そして友だちとして入院する前と変わらず接してほしいこと、もしこれからヘルプマークをつけている人と会ったとき、どのような思いを伝えたいのかに気づいてほしいという、自分の願いを話すことができました。

ぼくたちの身の回りには、いろいろなマークがあります。改めて、みなさんが「気になるマーク」に出会ったときは、どうしますか。ぼくは、「気になるマーク」に出会ったら、そのマークにはどのような意味があるのかを調べ、何を伝えようとしているのかを考え、自分のできることをしていきたいと考えます。これからぼくは、たくさんの人に助けてもらうことがあると思います。だからこそ、ぼくも助けを必要としている人がいたら声をかけていきたいと思っています。